



人と農と環境をつなぐ技術を考える

国際耕種は 2024 年に創立 40 周年を迎えました

お陰さまをもちまして、国際耕種は 2024 年 12 月 14 日に創立 40 周年を迎えました。ここ直近の 10 年間でみると、社内では創業第一世代が徐々に引退して世代交代がすすみました。また、2020 年にはコロナ禍のパンデミックで一時は海外渡航ができなくなり、その流れで在宅リモート業務を積極的にとり入れたりするなど内外で変化の多い期間でした。2014 年の 30 周年記念では、日ごろお世話になっている周囲の方々をお招きし、会社創業からの歩みを回顧しました。今回の 40 周年では、単なる過去の振り返りではなく、国際耕種がさらに先へと前進することを考え、そうしたおもいから OB 社員と現役社員が一同に集まって議論する交流イベントを企画し、昨年 12 月 25 日には記念報告・懇談会を開催しました。

国際耕種は 1984 年の創業以来、最大でも 12 名の社員規模の小さな会社でしたが、これまでに総計 23 名が活動してきました。今回の記念報告・懇談会は、Once an AAI, Always an AAI のフラットな精神でこれまで国際耕種に在籍され、技術協力等の事業に貢献されてきたすべての皆さんをいわば対等な「同門」としてお声がけしました。残念ながら、連絡や都合のつかなかった方もおられましたが、師走の忙しいなか、石垣島、大分、宮崎、岡山、名古屋、静岡など遠方からの参加もえて、当日は 18 名の元社員と現役社員、さらに、長年、社外から支援いただいている 3 名の方々も加わり、総勢 21 名の皆さんが参集しました。

記念報告・懇談会は、三部構成で実施しました。第一部は、コンフェッションと称し、参加者全員がそれぞれの近況・関心事・想い・活動などを手短かに報告（告白!?!）しました。現役社員の海外現場の報告のほか、地域の自治会活動やお祭、NPO 活動、就農上での苦労話、さらには、

人生におけるプライベートな体験談の披露など多岐にわたる多彩な話題が提供されました。プレゼン方法・形式は自由でまちまちでしたが、一人ひとりの個性や生きざまが滲みだすものでした。

第二部では、海外での経験を国内に還元する OB の実践に焦点をあて、深ぼりする場としました。ここでは 4 名の方にご登壇いただき、日本の各地域に根差した農業と環境保全について用意したスライド資料を使ってじっくり紹介していただきました。日々の地道な活動の積み重ね、やりがいとともに、地域に入っていく困難や将来の課題も共有され、とても有意義な時間となりました。



国際耕種創立40周年、記念報告・懇談会（2024年12月25日）

そして報告会のあとの第三部は、会場から中華料理屋に場所を移し、懇談会を実施しました。当日は、奇しくも、一昨年亡くなられた小島通雅元代表の 1 周忌でしたのでまずはみんなで献杯をささげ、そこからさらに踏み込んだ意見交換や刺激に満ちた談論に花をさかせ旧交を温めました。

さて、このたびの 40 周年記念誌では、過去 10 年間の業務実績一覧や AAINews 記事からの抜粋を行っています。国内の取り組みの記事では、OB のユニークな諸活動も紹介されていますので、ぜひ読んでいただければとおもいます。今後とも読者の皆様のご支援ご鞭撻をよろしくお願いたします。（2025 年 2 月）